



南小松沼（内湖） 自然再生協議会全体構想



南小松沼（内湖）自然再生協議会

2025年12月

目次

1. 自然再生の対象となる区域	3
1.1. 対象区域	3
1.2. 対象区域の概要	5
1.2.1. 自然環境	5
1.2.2. 社会環境	8
1.3. 対象区域における課題	14
1.3.1. 課題の概要	14
1.3.2. 課題に対する取り組みの経過	16
2. 自然再生の基本方針と目標	20
2.1. 自然再生の基本方針	20
2.2. 自然再生の目標	21
2.2.1. 南小松沼（内湖）および周辺地域の自然再生の目標	21
2.2.2. 南小松沼（内湖）および周辺地域の自然再生のイメージ図	22
3. 目標達成のための取り組み	23
3.1. 取り組み	23
3.2. 構成員の役割と連携	26
4. 関連資料	28
4.1. 生物リストおよびスライド	28
4.2. 鳥類リスト	32
4.3. 研究成果・関連文献	34
4.4. 南小松沼（内湖）自然再生協議会規約	37
4.5. 名簿	39



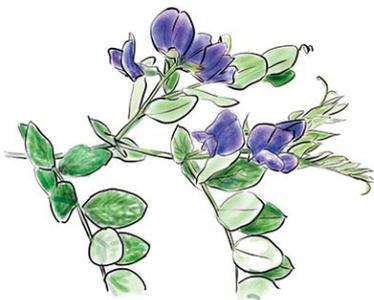
全体構想によせて

旧江若鉄道の二両列車がのどかに近くの田園を走っていた半世紀前、ヨシ帯に包まれた南小松沼は通称カヤと呼ばれていました。分け入ると、足元には無数のドブ貝が口を開け水上には和船が係留され、子供たちがカヤに注ぐ川に入ってアユやオイカワなどを手掴みして遊ぶ風景が日常でありました。

その後、土盛りの単線レールは JR 湖西線の高架に変わり、圃場整備に伴い上流の河川は付け変えられ出口の港湾も整備され、湖底泥の浚渫や石積護岸など様々な整備が行われました。地域住民による保全活動や「近江舞子内湖を愛する会」の 20 年にわたるヨシ保全活動もあって、比良山系と浜の白砂清松に包まれた内湖は現在も大変美しい景観を留めています。しかしその中を覗いてみると、無数にいた魚や貝の姿は見えず、上流河川でひしめき合っていたアユもおらず、出口の港湾に沢山の外来魚がうごめいています。

このように南小松沼が以前のような琵琶湖固有の魚や貝のゆりかごで無くなってしまったのは何故なのか、如何にすれば少しでもかつての状態に戻せるのかをテーマに、しっかりした調査研究を踏まえて実践を積み重ね、その意義を次世代にも伝えていくことが私たち世代の責務だと考え、2022 年 11 月 23 日に「南小松沼（内湖）自然再生協議会」を発足し、ここに全体構想として自然再生事業の進むべき方向性を示しました。

南小松沼（内湖）自然再生協議会 会長 平出直厚



1. 自然再生の対象となる区域

1.1. 対象区域

南小松沼（内湖）自然再生協議会は、滋賀県大津市南小松地区、琵琶湖の西部湖岸に位置する南小松沼、約7.8ha 及びその周辺を自然再生の対象とします。

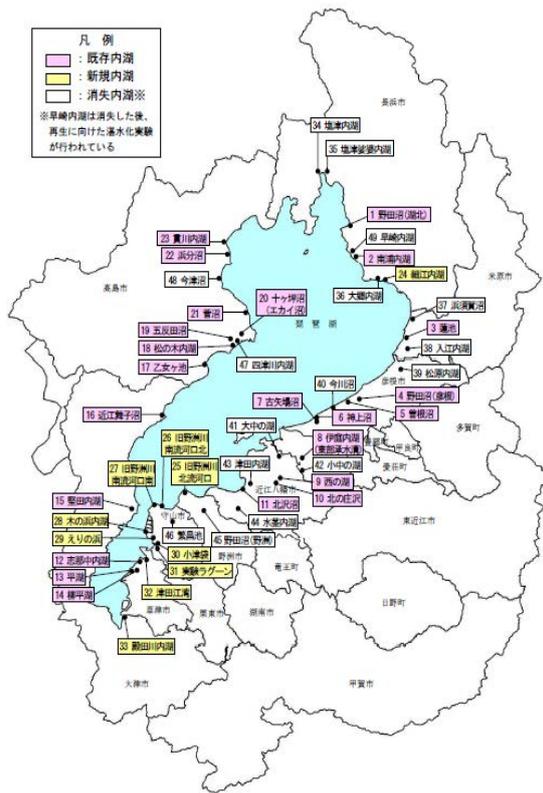
南小松沼は琵琶湖の沿岸に数多くある内湖*のひとつであり、琵琶湖西岸を走る JR 湖西線の近江舞子駅の南東に位置します。南小松沼には砂地川という一つの小河川といくつかの水路が流れ込んでおり、1本の水路で琵琶湖とつながっています。南小松沼は周辺の砂州や湿地など一体となって、貴重な自然環境を育むとともに、人々に利用されてきました。

南小松沼および周辺の湿地や砂州、レクリエーション施設の用地などであり、東の琵琶湖岸と西の県道 307 号線に挟まれた区域を自然再生の対象区域とします。

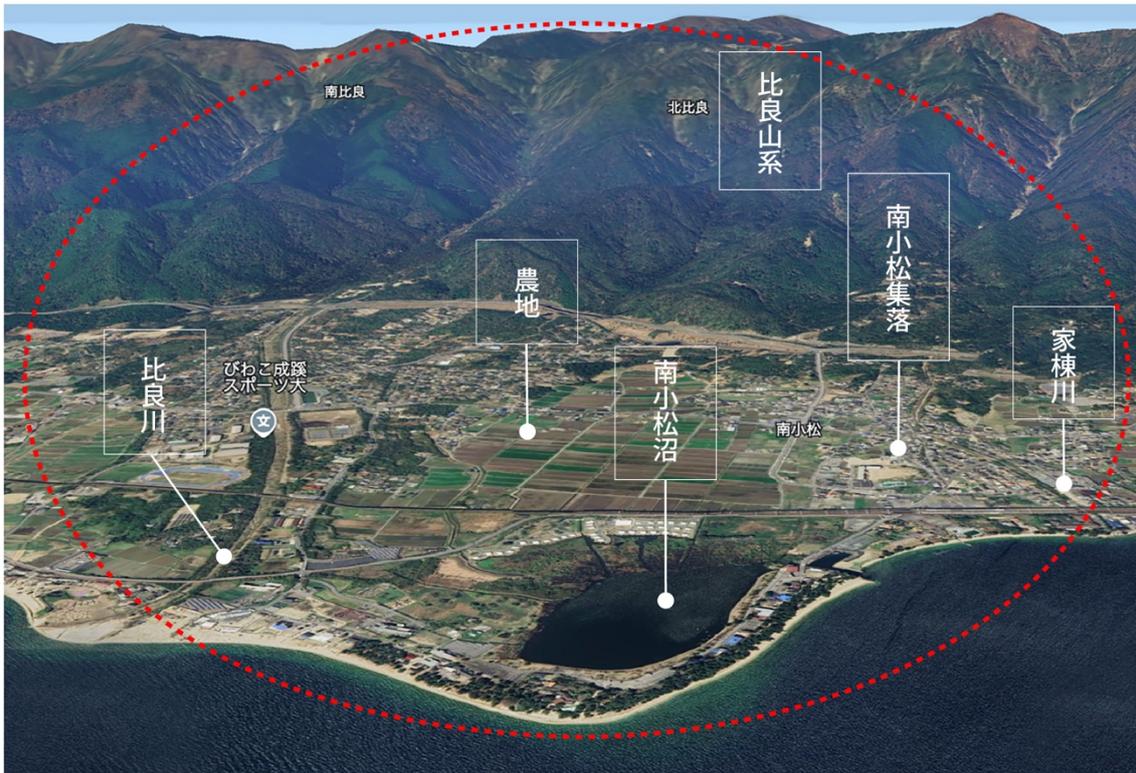
ただし、南小松沼とその周囲の自然環境は、水系・流砂系や生態系を通じて、あるいは文化圏として、比良山系から琵琶湖までの範囲と連続性・関連性があるため、家棟川流域、比良川流域、南小松集落などを含む範囲を念頭に活動します。



対象区域



琵琶湖周辺の内湖の分布



活動の念頭に置く周辺の範囲域

*内湖とは

我が国最大の湖であり、世界有数の古代湖でもある琵琶湖ですが、その周辺には「内湖」と呼ばれる小さな湖が点在しています。内湖とは、本来琵琶湖の一部であった水域が沿岸漂砂や河川から運ばれた土砂の堆積等により、琵琶湖湖岸の内（陸）側に生じた池、沼、沢、クリーク等であり、琵琶湖とつながっており人や生物等の移動が可能であることや、琵琶湖全体のおよそ60%ものヨシ等抽水植物が生育していること、また人の手が適度に加わることでその存在の維持が可能な里山型の二次的自然であることが特徴として挙げられ、荒々しい「ソトウミ」である琵琶湖本湖に対し、穏やかで多様な生命を育む「ウチウミ」として、一対の関係をなした存在として琵琶湖の周囲に住む人々の暮らしや生態系にとって欠くことのできない場となっています。

「内湖再生全体ビジョン」（滋賀県、2013）より

1.2. 対象区域の概要

1.2.1. 自然環境

1.2.1.1. 地形・地質・気候

南小松沼は琵琶湖の西側、湖西と呼ばれる地域の琵琶湖の畔に位置しています。湖西地域には、西側に標高 1000m を超える比良山系が南北方向に広く連なり、東側の標高 85m 程度の琵琶湖までの間に扇状地と湖岸低地の緩傾斜地が狭い幅で分布しています。大津市南小松地区周辺では山地から多くの河川が琵琶湖に向かって東流しており、これらの河川作用により山麓には土石流扇状地や自然堤防、天井川等の特徴的な地形が形成されています。南小松沼周辺では、急峻な山地から琵琶湖にかけてのわずか 5km と短い距離に陸域から水域までのエコトーン（移行帯）を形成する連続的な地形変化を見ることができます。

南小松沼は、琵琶湖沿岸に多くみられる内湖のひとつです。南小松沼の周辺では、その北側の家棟川や南側の比良川や大谷川などが比良山地から大量の土砂を琵琶湖に運んできました。琵琶湖に流れ込んで湖岸に堆積した土砂礫が、冬季の卓越風や強風・台風時の波浪、あるいは湖岸流によって湖岸沿いに浜堤や砂州を形成し、堰のようになって今の南小松沼が形成されたと考えられています。

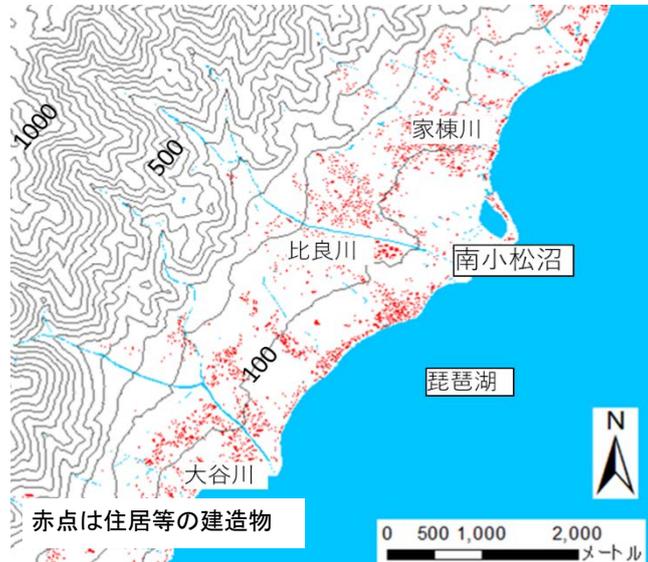
南小松沼は、最大水深が 3m 程度、面積が約 7.8ha の内湖で、東岸には護岸が整備されていますが、西岸は自然の水辺域が残されており、北西方向に湿地が広がっています。湿地内には比良山地を水源とする砂地川（スナジガワ）という小さな河川が内湖に流入する他、周辺の水田につづく数本の水路が固定されずに分布しています。内湖北端には 1 か所だけ琵琶湖とつながっている幅 5m 程度の水路があって、内湖からの唯一の水の出口になっています。

砂地川の源流部をはじめとしたこの辺りの比良山地の地質は花崗岩であり、南小松沼周辺の土壌は、花崗岩が風化したマサ土と呼ばれる砂質土が河川によって運ばれてきた堆積物でできています。花崗岩は風化速度が比較的早く、大量の砂質土が河川を通じて琵琶湖に供給されます。砂質のマサ土は南小松沼と琵琶湖の間の白砂青松の景観をつくる基盤となる他、ハマエンドウなどの希少植物の生育環境を提供しています。

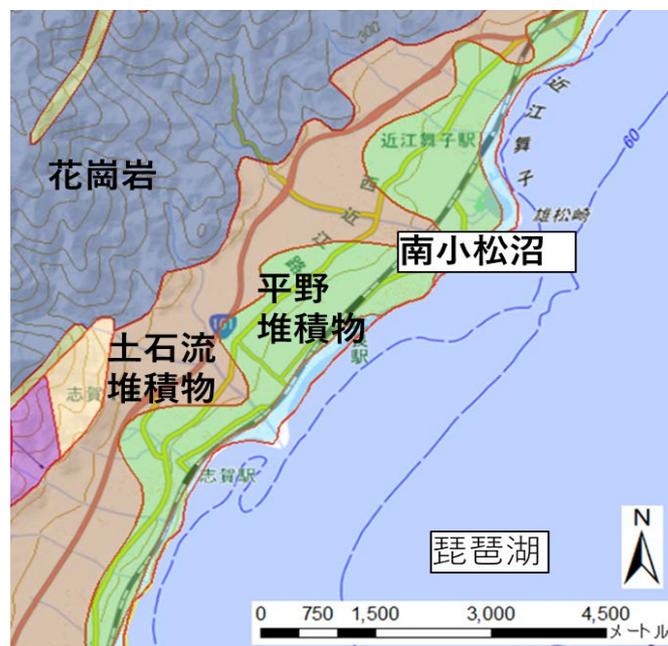


積雪の比良山系と南小松沼 撮影：平出直厚

気候は、南小松沼のすぐ北側にあるアメダス南小松観測所の平年値をみると、年降水量が約 1900 mm、平均気温は 14.7℃で、太平洋側気候と日本海側気候の双方の特性があります。冬期よりも夏期に降水量が多いものの、冬期には降雪・積雪が多く、比良おろしと呼ばれる強い西風が吹きます。春には冬期間の積雪が融けて、雪解け水が里の水田を潤します。



南小松沼周辺の地形および住居分布



南小松沼周辺の地質

(シームレス地質図(地質調査総合センター)に加筆)

1.2.1.2. 生物相

南小松沼には5つの水路が流入し、1つの水路で琵琶湖につながっています。南小松沼の水際にはヨシ群落がみられ、その後背地にはヤナギ類が点在した湿地が形成されています。流入水路は周辺の農地とつながっており湧水が流れ込む区間もみられます。また、琵琶湖と南小松沼の間には砂州が形成されており松林がみられます。このような南小松沼を中心とした水辺のエコトーンおよび水系のネットワークが多様な生物を支えています。

南小松沼および流入・流出水路には、琵琶湖固有種を含む多様な水生生物が生息し、二枚貝類など絶滅危惧種も多く含まれます。南小松沼周辺の湿地ではシュレーゲルアオガエルの産卵場になっています。

琵琶湖と水路でつながっているため、平常時は琵琶湖の水位と南小松沼の水位はほぼ同じです。しかし、降雨後は小松沼の水位のほうが高くなる傾向があり、湖岸の湿地は冠水します。そのため、南小松沼の北西部にはエコトーンが形成され、地表面の高さに応じた植生の帯状分布がみられます。湿地の植生は、ヨシが優占する場所とジャヤナギとマルバヤナギが優占する場所に分かれます。湿地には比高に応じてオニナルコスゲ、コバノカモメヅル、ノウルシ、ヒメミズワラビ、マツカサススキなどの希少種が分布します(丹羽 2023)。また、南小松沼の西部では、冬季のヨシ刈りが継続して実施されており、ノウルシの生育にはヨシ刈りが正の影響を与えていることが明らかになっています(Niwa2022)。

対象区域では、多くの希少な生物がみられますが、一般に、このような局所地域の生物分布情報は不足しがちです。しかし、地元の地域には、長年、地域の自然に関心を持ちモニタリングしている人達があります。ここでは、黒川琉伊さん(滋賀県立高島高校文理探究科)による生物調査と真崎健さんの鳥類調査記録を紹介します。こうした記録は、前述の水辺のエコトーンや水系のネットワークを含む広い範囲の生物分布を含んでおり、今後、自然再生をすすめる上で貴重な情報となります(4. 関連資料 4.1 生物リスト、4.2 鳥類リスト参照)。



絶滅危惧種も含まれる二枚貝類



小松沼に流入する川で採れたビワマスの稚魚。産卵していると考えられます。



南小松沼周辺で確認される植物（ヨシ、ハマエンドウ、ノウルシ）



南小松沼周辺で確認される鳥類（ヒドリガモ、コサギ、カワセミ）

1.2.2. 社会環境

1.2.2.1. 土地利用

江戸期から明治期の南小松地区の古絵図には南小松沼（内湖）が描かれ、周辺にはヨシが繁茂する氾濫原湿地が広がっていました。南小松沼およびその周辺は、人々の暮らしや漁業などの生業の場となり、船着き場もありました。集落の入会地所有とされていた内湖は、明治期に入ると官有地指定ののち公有化されました。しかし住民と内湖の繋がりはずぐに途絶えることはなく、昭和初期頃までは、屋根材などとしてのヨシ利用や有機肥料となる藻草や泥などの自然資源の利用、モロコ、アユ、ビワマス、タナゴの仲間（ボテジャコ）、ドブガイなど多様な動植物の利用が行われていました。南小松沼では、ヨシ群落に産卵をするために遡上してくるフナ類を狙った漁法の1つ「江口エリ」がありました。琵琶湖に比べてヨシ帯が広く豊かに広がる南小松沼の特性とその自然資源をうまく利用した漁でした。

1950年代になると、農業の近代化や宅地や観光開発など南小松沼を取り巻く環境に大きな変化が見られるようになりました。農業に関しては、1959年の揚水ポンプ設置、1981年から1986年の圃場整備がありました。家棟川の砂防工事などが開始され、堰堤や三面張り流路工の整備がなされました。交通に関しては、1974年にJR湖西線が開業し、2012年に琵琶湖西縦貫道路の一部である志賀バイパスが開通しました。



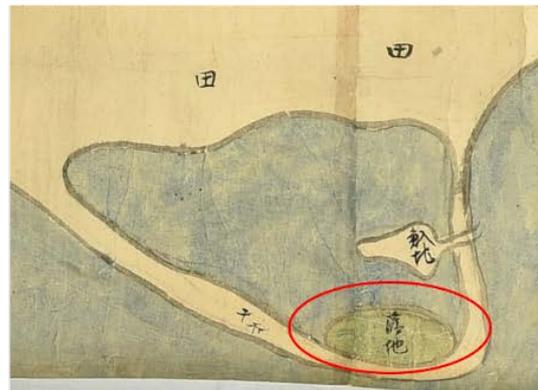
江州滋賀郡山論巻枚色絵図目 (Z5, 1690)



村絵図 (Z18, 1700-1799)



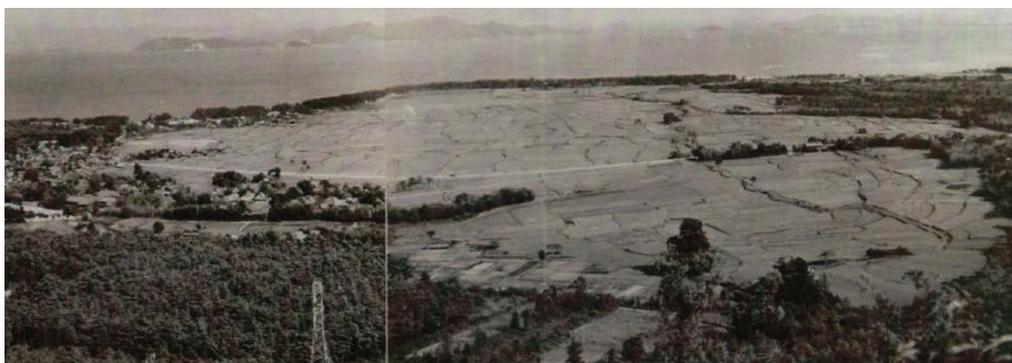
水損被害届用村色絵図下絵 (Z7, 1771)



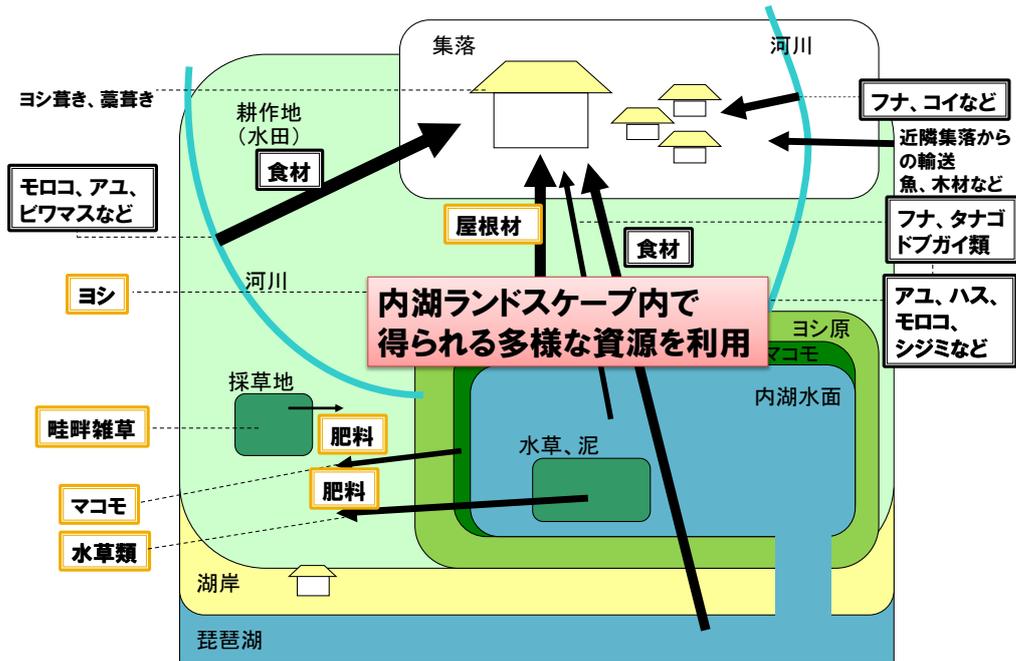
街道絵図 (Z55, 1701-1750推定)

江戸期の絵図における内湖周辺の様子（赤丸の範囲はヨシ帯を示す）

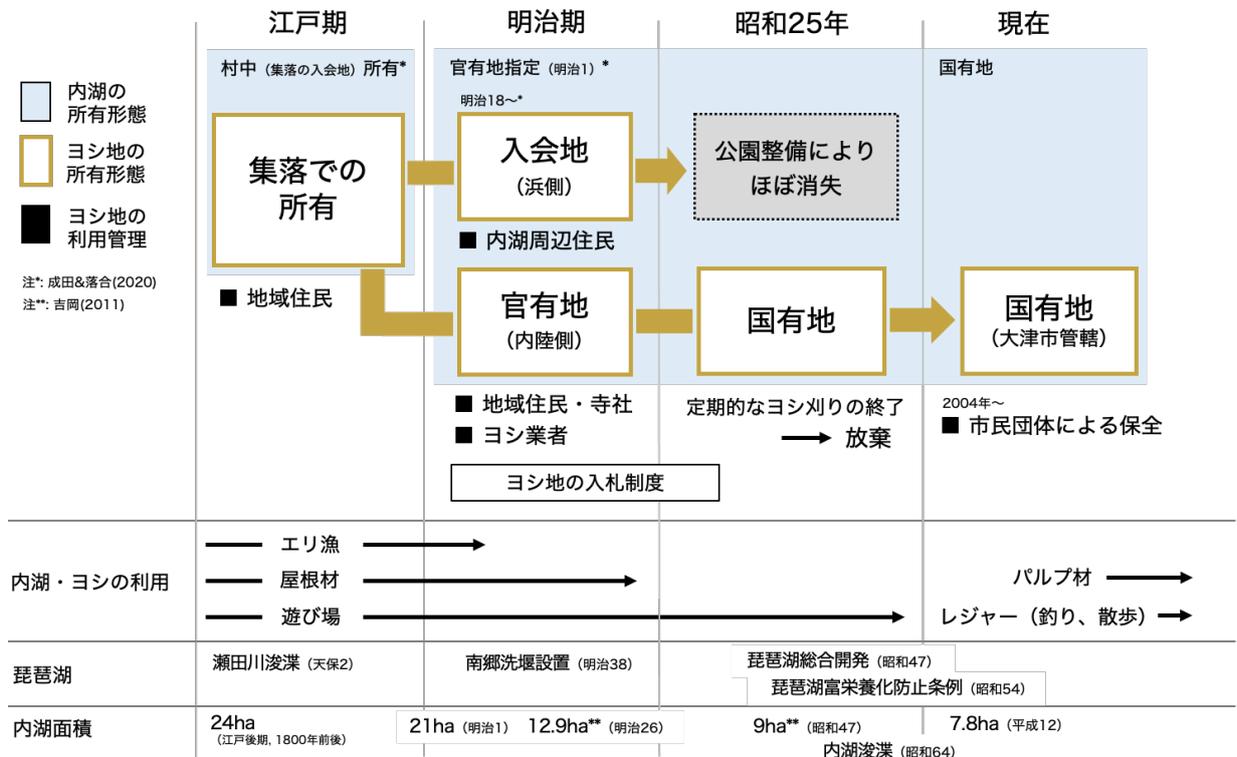
1950年に琵琶湖国定公園が指定され、南小松地区では山地と湖岸が指定の対象となりました。1962年には南小松沼および周辺地域を対象に「近江舞子集団施設地区」が指定されました。琵琶湖と比良山地の景観は大変美しく、四季折々の景観を楽しむことができます。琵琶湖に突き出た砂州は「涼風・雄松崎の白汀」と呼ばれ、「日本の白砂青松百選」および「琵琶湖八景」に選ばれています。南小松沼周辺の水田などでは宿泊施設やレジャー施設などの観光開発が進みました。



南小松周辺の景観（1960年頃） 撮影：木村喜代嗣



昭和初期頃の内湖周辺での土地利用（作成：吉岡憲成）



江戸期から現在にかけての内湖及びヨシ群落の変遷（作成：藪田美玖）



今日の南小松周辺の景観 撮影：綾部芳秀



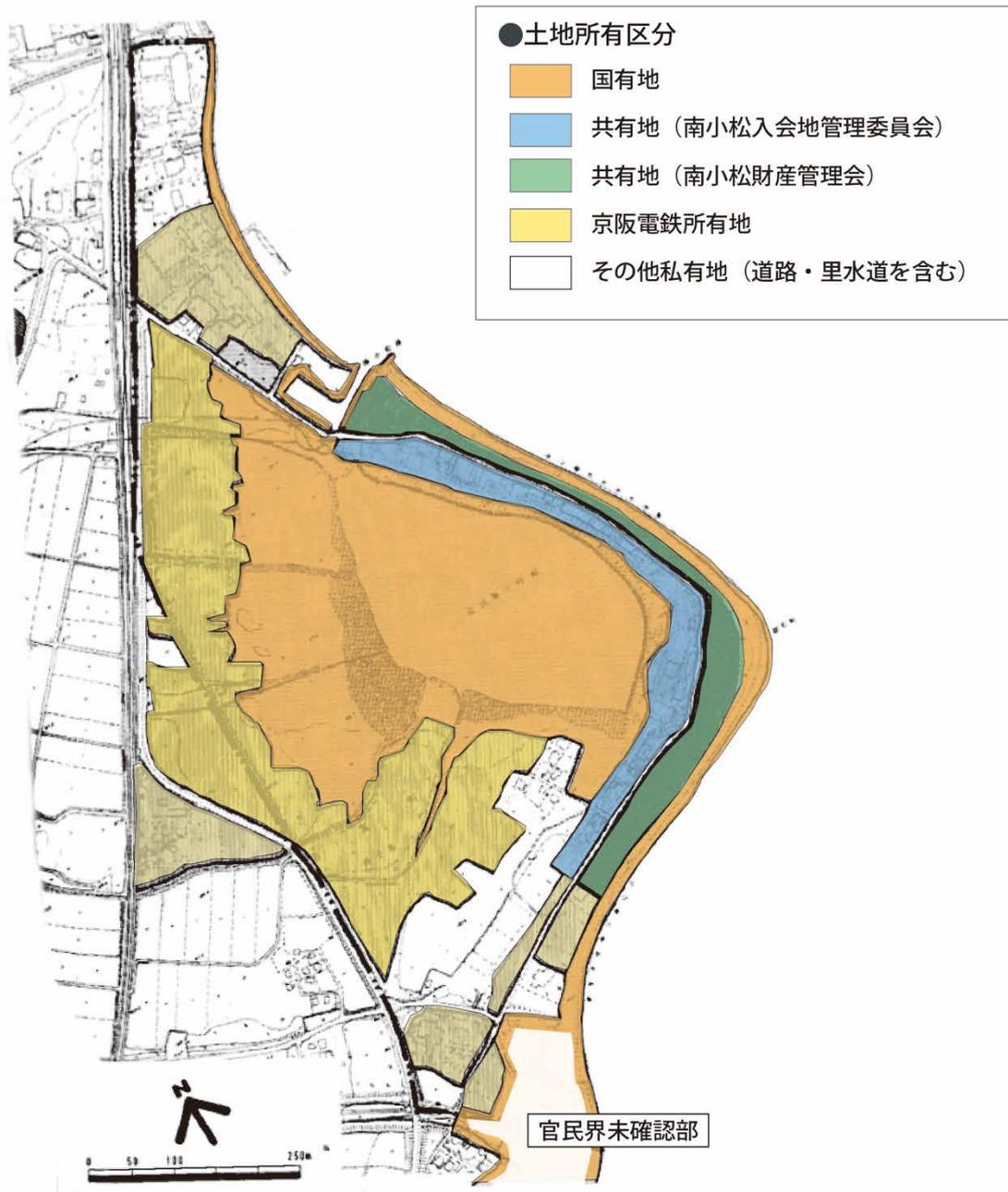
白砂青松の砂州の景観 撮影：小村廣光



内湖に映る比良山の景観 撮影：小村廣光

1.2.2.2. 土地所有と関連組織

南小松沼や琵琶湖湖岸の砂州は南小松の共有地となり、住民の暮らしの中で利用、管理されてきました。今日、南小松沼は国有地となっており、管理は大津市が行っています。周辺には、個人や企業が所有する宅地や観光・レジャー施設もあります。



土地所有区分 (環境庁 (1999)「平成 10 年度琵琶湖国定公園における保護および適正利用推進調査」より引用、一部修正)

南小松沼および周辺地域の関連組織およびその活動として、「南小松自治会」は自治会としての一斉清掃や駐車場の管理、自然災害への対応など様々な活動を行っています。「南小松入会地管理会」は、砂州の松林周辺の管理などを行っています。

農業関係者は農業用水の管理や河川清掃作業などを行っています。行政は、河川法や自然公園法などの法律に基づき、南小松沼や河川などの利用、管理に関わってきました。

内湖周辺のヨシ地では、2004年以降に市民団体「近江舞子内湖を愛する会」によるヨシ刈りや環境整備などの保全活動が行われてきました。メンバーの多くは幼少期に南小松沼や浜（近江舞子水泳場）などで遊んだ記憶があり、生き物が豊かに生息する環境を子どもたちに残したいという思いで活動しています。冬季のヨシ刈りには、地域内外の民間企業、漁協組合などと連携してきましたし、地元小学校に通う小学生を対象に、南小松沼やヨシに関する環境教育を行っています。また、大津市南小松、北小松、北比良が位置する小松学区周辺では、「小松プレーパーク」、「NPO法人 比良の里人」、「かんじる比良の会」など、転入者や地域外からの参加者もある市民組織があり、地域の自然や文化に関わる活動を行っています。



農業従事者による河川清掃作業



冬季のヨシ刈り



近江舞子水泳場



南小松沼での釣り

1.3. 対象区域における課題

1.3.1. 課題の概要

1.3.1.1. 生物多様性の保全上の課題

対象区域が抱える生物多様性の保全上の課題を、生物多様性国家戦略を参考に整理しました。

① 開発など人間活動による危機（第1の危機）

南小松沼周辺の湿地は、古くは農地でしたが耕作が放棄され湿地が形成されています。さらに、近年、その一部にグランピング施設が整備されました。また、南小松沼の南東部には公園と駐車場が整備されています。対象区域は開発など人間活動による影響を受け続けており、特に、保全上、以下の課題が挙げられます。

【河川-南小松沼-琵琶湖の連続性】

流入河川と南小松沼の連続性は維持されていますが、流入河川は河川改修や圃場整備事業などにより改変されています。南小松沼と琵琶湖は水路でつながっていますが堰が設置されています。

【水辺のエコトーン】

公園と駐車場が整備された南小松沼の南東部では、水際に石積護岸が造られ水辺のエコトーンが失われています。南小松沼の南西部の湿地では水辺のエコトーンが維持されています。しかし、南小松沼や流入河川の水位変動による攪乱は減少していると考えられ、遷移の進行によりヤナギ類が増加傾向にあります。

② 自然に対する働きかけの縮小による危機（第2の危機）

南小松沼の南西部の湿地では、2004年より「内湖を愛する会」によりヨシ刈りが行われています。このヨシ刈りは、湿地の遷移を抑制し、ノウルシ群落の維持に貢献しています。しかし、かつては、南小松沼湖岸全体でヨシ刈りが行われていたほか、南小松沼から水草を採取し肥料として使っていましたが、現在はみられません。また、「近江舞子内湖を愛する会」以外にも、対象区域の自然環境に関心を持つ様々な団体や個人が存在しますが、自然環境の現状に関する情報共有や保全のための連携が図れていません。

③ 人間により持ち込まれたものによる危機（第3の危機）

オオクチバスやブルーギルなどの水生生物、オオバナミズキンバイやナガエツルノゲイトウなどの植物など、琵琶湖水系には多くの外来生物が定着し、生態系に甚大な影響を与えています。これらの多くは、南小松沼にも侵入しています。また、南小松沼周辺の湿地にはニホンジカが侵入しており、植物の採食による影響が懸念されます。

1.3.1.2. 地域固有の環境、景観、文化の保全、再生、活用に関わる課題

南小松沼の周辺では、過去にヨシ刈り、稲作、漁業等により地域住民が生活圏として係わりを持ってきました。しかしそれも既に過去のこととなり当時の状況を知る方が少なくなっています。当時を知る人に話を聞く機会を設け、当時の動植物や風景等を記録にとどめ受け継いでいく必要があります。

また、新興住宅地の開発により、転入者が増加しましたが、湖岸へ足を運ぶ方は、散歩や釣り等を目的にした少数です。地元住民も足を運ぶ方は少ない状況です。風光明媚な景観や貴重な動植物を保全再生するため、観察会等のイベントを通して知識を深め、環境保全と再生への取り組みに対する理解を深めるとともに交流の場としての活用を図っていくことも大事です。多様な主体が環境や景観の特徴、価値に関する知見を共有し、それらを生かすために連携した地域づくりが求められています。

1960年代頃まで、子供たちは川で魚つかみや虫つかみ等自然の中で遊び、学習していましたが、近年そのような状況を見るのはほぼ無くなってきています。土地利用の変化などにより南小松沼の水質の悪化や周辺景観と不調和な人工物が増加するなど、環境の健全性や景観の質が低下しています。また、衣食住や地場産業と関わるヨシや魚類、石材などの自然資源の利用や管理が希薄になっています。環境としての健全性や景観の質を高めるためにも、南小松沼（内湖）ならではの環境や景観、文化の保全・再生と積極的な活用の必要があります。

近江舞子水泳場周辺には、夏季を中心に京阪神より多くの水泳客などが訪れます。しかし、ゴミの散乱が見られるなど、ゴミ対策が大きな課題となっています。観光客などに対する環境保全意識の啓発が必要となっています。また、南小松自治会が主体となって清掃作業に取り組んでいますが、今後ボランティアなども参加した取り組みが求められます。地域内外の人々を対象にした自然観察会などの環境教育の推進や、地域の魅力を如何に推進していくかも大きな課題です。南小松沼や周辺地域の自然資源を活用する中で培われてきた地域文化を積極的に伝承、活用していく手段や仕組みが求められます。

1.3.2. 課題に対する取り組みの経過

1.3.2.1. これまでの取り組み

これまでに実施している課題に対する地域および市民活動による取り組みをまとめます。

① ヨシ帯の保全・再生・活用

【ヨシ刈りの実施】

南小松沼および琵琶湖周辺の生態系に関して重要な役割を担うヨシ群落を適正に管理するため、地域住民により市民団体「近江舞子内湖を愛する会」が立ち上げられ、毎年冬期にヨシ刈り活動が水草除去やごみ拾いと共に行われています。また、地元小学校との共同によるヨシ刈りと環境教育を併せたプログラムの実践や、近年の企業の社会的責任(CSR)の高まりを背景とした地域活動実践の場としての提供などを継続して実施しています。2022年には、長年にわたる地道な環境美化や環境保全活動などに顕著な功績があった個人や団体を表彰する、大津市の「第9回煌めき大津環境賞」を受賞しました。

【草刈りの実施】

南小松自治会を中心として、毎年周辺地域の草刈りが行われてきました。美観の維持・向上のみならず、自然環境の保全、観光地としての環境維持のために地域住民が共同で実施しています。



小学校のヨシ刈り・ヨシ苗植えの様子



近江舞子内湖を愛する会によるヨシ刈りの様子

② 在来種の保全・生育・生態環境の再生と改善

希少野生植物種であるであるノウルシ、ハマエンドウ、ハマヒルガオ等、の分布確認や生育環境調査、保護区の維持管理を行ってきました。

【ハマエンドウの生育地保護活動の実施】

近江舞子ハマエンドウ生育が出来る環境を維持するため、保護区を指定・整備する取り組みを行っています。

【ノウルシ分布調査の実施】

ヨシ原が新芽を出し始める頃に、黄色い小さな花を咲かせる「ノウルシ」は準絶滅危惧種に指定されており、その群生が見られる場所は減少しています。また、大学研究者により、ノウルシの分布や生育に必要な環境条件の調査が実施され、これにより適度な攪乱がノウルシの生育環境には重要なことが確認されました。

【魚類調査の実施】

南小松沼や周辺流入河川に生息する魚類・貝類の状況を確認する魚類調査を実施し、当地に生息する魚類および周辺環境（流路・水量・水温等）を確認しています。また、地元の小中学生のボランティアによる魚類・貝類調査や地域住民（子供たち）を対象とした勉強会などを行い、合わせて地域住民の情報ネットワークを通じて、アユの接岸・産卵情報を共有し、状況確認を行うなどの取り組みも行っていきます。

【鳥類観察会の実施】

南小松沼に飛来する鳥類を観察し、その生息状況や周辺環境を確認しています。その上で地域住民を対象とした鳥類観察会を実施し、生息する鳥類の種類や生存環境を紹介しています。また、地域住民情報ネットワークを通じ情報を共有する取り組みも行っていきます。



南小松沼周辺での動植物の観察会の様子

③ 外来種対策

【外来魚回収いけす設置】

南小松沼に生息するブラックバスやブルーギル等外来種を対象に、外来魚回収いけすを設置する取り組みをおこなっています。

【外来種の分布把握】

生物調査や観察会で確認された外来種の情報共有しています。

④ 南小松沼の水質等の改善

【南小松沼の水質調査】

全国規模で実施されている水質調査に参加して継続的に水質調査を実施してきました。水質調査をワークショップ形式で実施することによって、地域住民が内湖の環境に関する課題を共有する機会としています。また、水質改善のための継続的な調査の実施、流入河川の改善、湿地の再生に向けた植生管理等の検討を行っています。

⑤ 南小松沼に関わる水系のつながり、物質環境の再生

【流入河川の確認と改善】

南小松沼の外輪にはかつて水田が広がっていましたが、昭和40年代の観光開発構想に伴い長きにわたり手付かずの状態が続いてきました。また、流入河川の浚渫土がその周辺に置かれたままとなり、かつての湿地とは異なる植生が生育するなど環境が大きく変化しています。これらの状況を受け、流入河川の状況把握と改善対策について検討しています。

⑥ 湖周辺の環境や文化を生かした教育

【昔話の記録】

南小松沼周辺は宅地開発が進み、域外から新たに転居してくる住民も増えてきました。そこで、地域の子どもたちを対象に、古くから住んでいる住民から昭和初期に撮影された白黒写真を見ながら当時の生活を語ってもらうイベントや、昔の南小松沼の話を伝えて、その風景を絵にしてもらう「聞き描き」を開催する等、新旧の住民との交流を深めるとともに、南小松沼の自然環境を後世に継承するための教育活動を実施しています。

【自然観察会の実施】

地域住民および子供達が地域環境を理解し、自然と触れ合い学ぶことを目的として、「生き物調査隊」や「今昔調査隊」を実施しています。地域在住のお魚博士や学生をインストラクターとして南小松沼周辺での生き物調査・観察会を実施し、フィールドワークを交えた環境教育を実践しています。また、たらい船に乗って内湖を一周するイベントや、内湖に関する地域住民による語りやクイズなどを交え、自らが住んでいる地域の今と昔、南小松沼周辺環境に関する知識を楽しく学べる機会を提供しています。



生き物調査隊チラシ



今昔調査隊チラシ



生き物調査隊の様子



今昔調査隊 投網体験



今昔調査隊 南小松沼一周の様子



←聞き描き会チラシ

↑昔の風景について聞く



昔話の「聞き描き」の様子

2. 自然再生の基本方針と目標

2.1. 自然再生の基本方針

南小松沼（内湖）自然再生協議会では、南小松沼と周辺 of 自然、南小松沼と人との関わりを見直し、創造し、将来にわたって南小松沼の恩恵を活かす地域づくりを目指します。

（1）内湖再生全体ビジョンに基づいた保全と活用

「内湖再生全体ビジョン」（滋賀県、2013）では、内湖の保全と活用を進めるシナリオとして、「①価値の再発見、②機能の再生、③効果の現れ」という道筋が示されています。南小松沼の保全・活用の推進においても、このシナリオに沿って、行政、企業、研究者、各種団体、地元住民、地域外の人々などの多様な主体が連携しつつ主体的に取り組めます。

南小松沼には多様な価値がありますが、近年の自然環境の変化に伴い、その価値は大きく変化するとともに、関係する人々の認識も低下しつつあります。そこで、南小松沼（内湖）自然再生協議会では、科学的な調査を実施して価値を再発見し、得られた情報の関係主体間での共有を進めます。そして、共有された価値の再生に向けて、必要な機能の再生に取り組み、さらに取組後の自然環境に関する情報収集により取組の成果を検証し、さらによりよい取組へと発展させます。

（2）南小松沼の特色を活かした保全・再生・活用の方向性

「内湖再生全体ビジョン」に示された方針に基づきつつ、南小松沼の特色を生かした自然再生を進めます。

南小松沼とその周辺地域には、豊かな生態系と、それを利活用した文化が育まれてきました。しかし、近年では生態系に大きな変化が起こっており、南小松沼を活かした伝統的な生業や文化も失われつつあります。そこで南小松沼（内湖）自然再生協議会では、南小松沼の特徴的な自然環境の再生に取り組み、さらに、地域の特色と魅力を活かす保全・活用を進めます。また、地域固有の自然環境の再生を通じて、関係主体間の交流を図り、自然環境を活かした豊かな地域づくりを進めます。

（3）多様な主体の協力

南小松沼とその周辺地域における自然再生の取組は、行政、企業、研究者、各種団体、地元住民、地域外の人々などの多様な主体が協力して実施します。各主体が、それぞれの特性を活かした取組を進めながらも、南小松沼（内湖）自然再生協議会を通じて、情報共有や意見交換を活発に行うことによって、整合性のある取組を進めます。また、地域への来訪者や外部の団体とも情報共有を図り、南小松沼（内湖）自然再生協議会の取り組みを広く社会に発信します。

2.2 自然再生の目標

2.2.1. 南小松沼（内湖）および周辺地域の自然再生の目標

自然再生の基本方針を受け「南小松沼をとりまく自然と人のつながりの再生と活用」を自然再生の目標としました。この目標を達成するために3つのテーマを設定しました。

テーマ1：多様な動植物が共存できる環境の再生と保全 →生態系

テーマ2：健全で美しい環境や景観を活かした地域づくり →地域らしさ

テーマ3：身近な自然資源を活かした地域文化の伝承と創造 →人のつながり

それぞれのテーマごとの将来像は以下の通りです。

テーマ1

南小松沼に、多くの水生植物、魚類、貝類などの水生生物が生育・生息し、周囲の湿地や砂州とのつながりの中で稀少な草花や鳥類、昆虫類等を含む生態系が維持されています。このような生態系は、比良山麓の里山から河川を通じて琵琶湖までつながった連続性の中で維持されています。

テーマ2

南小松沼とその周辺の自然は、健全で美しい環境や景観を提供する基盤であるとともに、地域らしさを形成している重要な役割を持っている。

テーマ3

南小松沼には、その自然環境や自然資源を基盤とする文化が根付いており、その中で自然と人々が共生する文化が育まれています。私たちは、南小松沼とその周辺において先人が育んできた地域文化の伝承と現代的な創造を進め、次の世代へと引き継いでいきます。

2.2.2. 南小松沼（内湖）および周辺地域の自然再生のイメージ図

3つのテーマに合わせて、南小松沼の将来のイメージ図を描き、地域住民などが思い描く南小松沼（内湖）および周辺地域での自然再生の具体的な取り組みの例を示します。



南小松沼（内湖）および周辺地域の自然再生のイメージ図

イラスト：大原歩

3. 目標達成のための取り組み

3.1. 取り組み

テーマ1 多様な動植物が共存できる環境の再生と保全

南小松沼には、多くの水生植物、魚類、貝類などの水生生物が生育・生息しており、周囲の湿地や砂州とのつながりの中で希少な草花や鳥類、昆虫類等を含む生態系が維持されてきました。このような生態系は、比良山麓の里山から河川を通じて琵琶湖までつながった連続性の中で成立しています。南小松沼の多様な動植物は、私たちに豊かなめぐみをもたらしていますが、環境の変化に伴う生物多様性の劣化が懸念されています。私たちは南小松沼と周辺地域の自然環境を科学的に把握した上で、現在残されている生態系を保全するとともに、多様な動植物が将来にわたって共存できる自然環境を再生します。

活動目標

- 目標1 湿地と水辺生態系の再生と保全
- 目標2 河川～内湖～琵琶湖の流域の連続性の確保と生態系の再生
- 目標3 湿地や砂浜における適度な攪乱による生物多様性の保全

取組内容

- 《調査》
 - ・水質調査、水位調査、水流調査
 - ・魚類、貝類などの水生生物の生息状況の把握
 - ・水辺や湿地、砂浜の植物（ヨシ、ノウルシ、ハマエンドウ他）の把握
 - ・周辺地域も含めた鳥類や昆虫類等の把握
 - ・湖底の底質調査
- 《活動》
 - ・水系のつながりを活かした健全な水環境の再生
 - ・ヨシ刈り、草刈り（適度な人為的攪乱）、過剰繁茂した樹木の伐採
 - ・近江舞子浜の松葉掻きなどによる白砂青松の保全
 - ・外来種対策
 - ・ビワマス、ボテジャコ、ニゴロブナ、ナマズ、ドジョウ、二枚貝の仲間などが生育できる生物のゆりかごの再生

テーマ2 健全で美しい環境や景観を活かした地域づくり

南小松沼とその周辺の自然は、健全で美しい環境や景観を提供する基盤であるとともに、地域の人々のつながりの場としても機能してきました。私たちは、このような貴重な空間の自然環境を保全し、地域づくりに活用できる場として再生します。

活動目標

- 目標1 自然再生に寄与する活動の推進と価値観の共有
- 目標2 防災のための空間としての活用
 - 水害・土砂災害の緩衝帯としての機能の保全
- 目標3 地域住民のくらしと調和した来訪者による利用の誘導

取組内容

- 《調査》
 - ・南小松沼形成の歴史の把握
 - ・南小松沼の役割と景観の把握
 - ・南小松沼利用（生業、遊び）の実態と歴史の把握
- 《活動》
 - ・現地でのイベント開催
 - 動植物の観察
 - ヨシ刈り、清掃等
 - 伝統漁法や水遊びの再現
 - ・ワークショップ等による南小松沼および周辺地域の環境や景観の利活用の検討
 - ・南小松沼（内湖）自然再生協議会によるイベント開催や他団体との協働

テーマ3 身近な自然資源を活かした地域文化の伝承と創造

南小松沼には、その自然環境や自然資源を基盤とする文化が根付いており、その中で自然と人々が共生する文化が育まれてきました。私たちは、南小松沼とその周辺において先人が育んできた地域文化の伝承と現代的な創造を進め、次の世代へと引き継いでいきます。

活動目標

- 目標1 伝統的・文化的な知見の継承と共有
- 目標2 自然再生に寄与する価値観の共有
 - 地域住民のくらしと調和した新住民や来訪者との協働
 - 担い手づくり

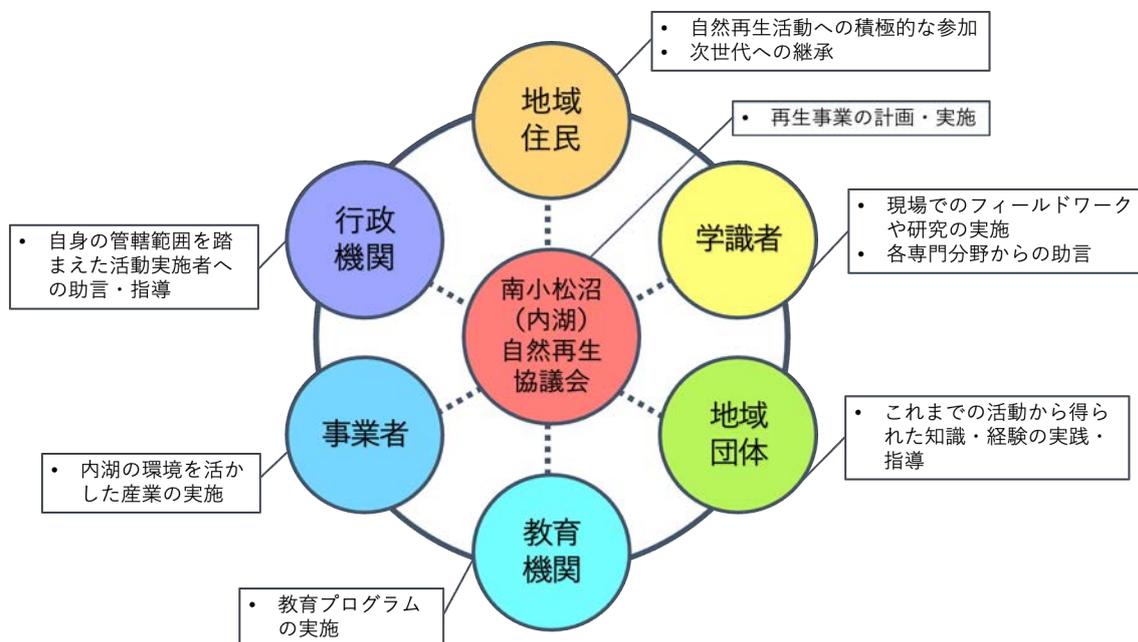
取組内容

- 《調査》
 - ・南小松沼および周辺地域の利用の歴史（伝統漁法、遊び）の把握
 - ・歳時記、風物詩（雪山景色）の整理
 - ・南小松沼等に関連した信仰・祭事（火祭り）・食文化などの把握
- 《活動》
 - ・ヨシ、松葉、魚類、石材などの自然資源の有効利用
 - ・地域文化の伝承や創造に向けたワークショップ、体験イベント
 - ・教育機関や企業等と連携した教育、普及・啓発活動
 - ・活動の見える化（冊子作成、メディアとの連携など）
 - ・ニュースレターの発行（⇒会員や外部関係者との情報共有）

3.2. 構成員の役割と連携

南小松沼とその周辺地域における自然再生は、多様な主体から構成される南小松沼（内湖）自然再生協議会において、全体構想として理想とする自然環境像や活動の達成目標を共有した上で、協議を重ねながら進めていきます。自然再生に向けた具体的な取組は、協議会で検討した方針をもとに、担当する各構成団体・構成員が計画を策定し実施します。その実施状況については、南小松沼（内湖）自然再生協議会で定期的に情報共有や確認を行います。

主な構成員の連携と役割分担



南小松沼（内湖）自然再生協議会で共有された目標を達成するために、以下の表に示されるような役割分担で取組を進めていきます。自然再生事業の進捗により、役割分担は適宜見直しをするものとします。

主な構成員ごとの役割分担

	学識者	地域団体	地域住民	行政機関	教育機関
1 多様な動植物が共存できる環境の再生と保全					
①水質、水位調査、水流調査	◎	○	○	○	
②魚類や貝類などの水生生物の生息状況の把握	◎	○	○	○	
③水辺や湿地、砂浜の植物の把握	◎	○	○	○	
④周辺の鳥類や昆虫類の把握	◎	○	○	○	
⑤湖底の底質調査	◎	○	○	○	
⑥水系のつながりを活かした健全な水環境の再生	◎	◎	○	○	
⑦ヨシ刈り、草刈り、過剰繁茂した樹木の伐採	○	◎	○	○	○
⑧近江舞子浜白砂青松の保全	○	◎	○	○	
⑨外来種対策	○	◎	○	◎	
⑩魚類や貝類などが生育できるゆりかごの再生	○	◎	○	○	
2 健全で美しい環境や景観を活かした地域づくり					
①南小松沼形成の歴史の把握	◎	○	○	○	
②南小松沼の役割と景観の把握	◎	○	○	○	○
③南小松沼利用（生業、遊び）の実態と歴史の把握	◎	◎	○		○
④イベントの開催（生物観察、ヨシ狩り、清掃、伝統魚法、水遊び）	○	◎	○		
⑤ワークショップ等による南小松沼の利活用の検討	◎	◎	○	○	
⑥自然再生協議会によるイベント開催や他団体との協働	◎	◎	○	○	○
3 身近な自然資源を活かした地域文化の伝承と創造					
①南小松沼利用の歴史（伝統漁法、遊び）の把握	◎	○	○		○
②歳時記、風物詩（雪山景色）の整理	◎	○	○		
③南小松沼などに関連した信仰・祭事・食文化などの把握	◎	○	○		
④ヨシなどの自然資源の有効利用	○	◎	○	○	○
⑤地域文化の伝承や創造に向けたワークショップ等	◎	○	○	○	
⑥教育機関や企業等との連携による教育、普及・啓発活動	◎	◎	○	○	○
⑦情報の発信・活動の紹介	○	◎	○	○	○

◎：中心的に活動

○：支援的に活動

4. 関連資料

4.1. 生物リストおよびスライド

作成：滋賀県立高島高校文理探究科 2年 黒川琉伊

(作成：2022年4月 大津市立志賀中学校 黒川琉伊)

		滋賀県RDB	外来生物	おもな確認地点						
				琵琶湖	松林	内湖	湿地	ヨシ帯	水路	農地
魚類	スナヤツメ	絶滅危機増大種							●	
	カワムツ								●	
	オイカワ								●	
	ニシシマドジョウ								●	
	ドジョウ								●	
	ホトケドジョウ	絶滅危機増大種							●	
	オウミヨシノボリ						●			
	ウキゴリ						●			
	コイ		✓				●		●	
	ゲンゴロウブナ						●			
	ギンブナ						●			
	カネヒラ	絶滅危機増大種					●			
	ウグイ									
	カムルチー		✓							
	ブルーギル		✓							
	オオクチバス		✓							
	ニゴロブナ	希少種			●					
	ハス	希少種			●					
	ワタカ	絶滅危惧種			●					
	ナマズ				●					
	ビワコオオナマズ	希少種			●					
	スゴモロコ	希少種			●					
	ホンモロコ	絶滅危機増大種			●					
	ビワヒガイ	希少種			●					
	コウライニゴイ				●					
	ビワマス				●					
	ニゴイ				●					
イサザ	絶滅危惧種			●						
コクチバス		✓		●						
ワカサギ		✓		●						
貝類	ドブガイの一種	希少種				●				
	タガイ					●				
	カラスガイ			●		●				
	オグラヌマガイ	絶滅危惧種		●		●				
	イシガイの一種	絶滅危惧種		●		●				
	マシジミ	絶滅危機増大種		●		●				
	ドブシジミ					●				●
	オオタニシ									●
	ヒメタニシ						●			●
	マルタニシ						●			●
	マメタニシ									●
	カワニナ								●	
	チリメンカワニナ								●	
	ハベカワニナ			●						
	ヒメモノアラガイ									●
	モノアラガイ									●
	サカマキガイ									●
甲殻類	アメリカザリガニ		✓				●			●
	カワリヌマエビ類		✓				●			●
	ヌマエビ						●			●
	スジエビ			●			●			●
	テナガエビ			●			●			●
	ミズムシ			●						
ナリタヨコエビ	希少種		●							

		滋賀県RDB	外来生物	おもな確認地点							
				琵琶湖	松林	内湖	湿地	ヨシ帯	水路	農地	
水生昆虫	タイコウチ								●	●	
	ミズカマキリ	希少種							●	●	
	コオイムシ								●	●	
	オオコオイムシ								●	●	
	ミズスマシ								●	●	
	シマゲンゴロウ								●	●	
	コシマゲンゴロウ								●	●	
	ハイロゲンゴロウ								●	●	
	ヘイケボタル								●	●	
	コガムシ								●	●	
	ガムシ								●	●	
	アメンボ類								●	●	
	両生類	アカハライモリ								●	●
		トノサマガエル								●	●
ナゴヤダルマガエル		絶滅危機増大種							●	●	
ツチガエル									●	●	
ヌマガエル									●	●	
ニホンアカガエル									●	●	
シュレーゲルアオガエル									●	●	
ニホンアマガエル									●	●	
爬虫類	ウシガエル		✓					●	●		
	マムシ						●				
	ヒバカリ						●				
	ジムグリ						●				
	アオダイショウ							●		●	
	シマヘビ							●		●	
	ヤマカガシ							●		●	
	ニホンカナヘビ							●		●	
	スッポン								●		
	ミシシippアカミミガメ		✓						●	●	
	クサガメ								●	●	
哺乳類	ニホンイシガメ	希少種								●	
	ニホントカゲ									●	
	ヌートリア		✓			●					
	イタチ							●		●	
	アナグマ							●		●	
	ホンドタヌキ							●		●	
	ニホンジカ							●		●	
	イノシシ							●		●	
ノウサギ							●		●		



生き物は楽しい！守らなきゃ！！って子供たちに伝えたい。
ぼくにとって、こんなに楽しい楽園を、琵琶湖を、ずっと守っていききたい、守ってほしい



		滋賀県RDB	外来生物	おもな確認地点						
				琵琶湖	松林	内湖	湿地	ヨシ帯	水路	農地
鳥類	アオサギ					●				
	ダイサギ					●				
	コサギ					●				
	ゴイサギ	希少種				●				
	カワウ					●				
	カルガモ						●			
	カワセミ	希少種					●			
	バン	希少種						●		●
	ササゴイ	希少種				●				
	ヨシゴイ	絶滅危惧種				●				
	ヒクイナ	絶滅危機増大種					●			
	オオヨシキリ	希少種						●		
	コヨシキリ	希少種						●		
	タシギ	希少種								●
	ハリオシギ									●
	オオジシギ									●
	チュウジシギ									●
	ノビタキ									●
	ヒドリガモ					●				
	ハシビロガモ					●				
	ヨシガモ	希少種				●				
	コガモ					●				
	トモエガモ	希少種				●				
	マガモ					●				
	オナガガモ					●				
	オカヨシガモ					●				
	ホオジロガモ					●				
	ミコアイサ	希少種	●			●				
	カワアイサ	希少種	●			●				
	オオバン					●				
	カンムリカイツブリ	希少種				●				
	カイツブリ	希少種				●				
	ハジロカイツブリ	絶滅危惧種				●				
	ノスリ	希少種				●				
	チュウヒ	希少種						●		
	コミズク	絶滅危惧種						●		
	クイナ	絶滅危機増大種						●		
	スグロカモメ		●							
	ユリカモメ		●							
	カモメ		●							
	オオセグロカモメ		●							
	セグロカモメ		●							
	アジサシ		●							
	ウミアイサ	希少種	●							
	ミサゴ	希少種	●							
	カワウ		●			●				
	オオミズナギドリ		●			●				
	アトリ									
	ベニマシコ	希少種			●					
	カシラダカ				●			●		
	ホオアカ				●			●		
	アオジ				●			●		
	オオジュリン	希少種			●			●		
	ジョウビタキ				●					
	マヒワ				●					
	トビ							●		
	カワラヒワ							●		
	ホオジロガモ							●		
	セッカ							●		
	ウグイス							●		
	モズ							●		

		滋賀県RDB	外来生物	おもな確認地点						
				琵琶湖	松林	内湖	湿地	ヨシ帯	水路	農地
植物	マツモ					●				
	クロモ					●				●
	コカナダモ		✓	●		●				●
	オオカナダモ		✓	●						●
	イバラモ			●						●
	ネジレモ			●						●
	エビモ			●						●
	サンネンモ	絶滅危機増大種		●						●
	マコモ									
	ヨシ							●		
	ガマ							●		
	ヒメガマ							●		
	ヤナギ類							●		
	ハマエンドウ	絶滅危惧種								
	ノウルシ									
昆虫（トンボ）	イトトンボ類					●				
	ギンヤンマ					●				
	クロスジギンヤンマ					●				
	オニヤンマ					●				
	ウチアワヤンマ					●				
	チョウトンボ					●				
	オオシオカラトンボ					●				
	シオカラトンボ					●				
	ウスバキトンボ					●				
	アキアカネ					●				
	ナツアカネ					●				
	オオサカサナエ	希少種					●			



水位低下時には、貴重な二枚貝類が壊滅的な被害を受けることがわかった。姿が見えると干上がる前にカラスやサギにたべられてしまうので、できる限り避難させました。同時に貴重な貝類がまだたくさん生息していることも分かったので、早急に対策を考えてほしい。

泥の中から救出して深場に避難させた二枚貝



田



琵琶湖





湿地



近江舞子内湖

より良い近江舞子沼を守り受け継ぐために、、、、、、
滋賀県立高島高校文理探究科2年黒川 琉伊

4.2. 鳥類リスト

作成：真崎健

No.	目	科	種名	学名	南小松沼周辺	滋賀県RDL区分	備考(近江舞子での区分他)	
1	カモ目	カモ科	オンドリ	<i>Aix galericulata</i>	○	希少種	冬鳥	
2	カモ目	カモ科	ハンビロガモ	<i>Spatula clypeata</i>	○		冬鳥	
3	カモ目	カモ科	オカヨシガモ	<i>Mareca strepera</i>	○		冬鳥	
4	カモ目	カモ科	ヨシガモ	<i>Mareca falcata</i>	○	希少種	冬鳥	
5	カモ目	カモ科	ヒドリガモ	<i>Mareca penelope</i>	○		冬鳥	
6	カモ目	カモ科	カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○		周年	
7	カモ目	カモ科	マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	○		冬鳥	
8	カモ目	カモ科	オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	○		冬鳥	
9	カモ目	カモ科	コガモ	<i>Anas crecca</i>	○		冬鳥	
10	カモ目	カモ科	ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>	○		冬鳥	
11	カモ目	カモ科	キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>	○		冬鳥	
12	カモ目	カモ科	スズガモ	<i>Aythya marila</i>	○		冬鳥	
13	カモ目	カモ科	ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>	○	希少種	冬鳥	
14	カモ目	カモ科	ミコアイサ	<i>Mergellus albellus</i>	○	希少種	冬鳥	
15	カモ目	カモ科	カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>	○	希少種	冬鳥	
16	カモ目	カモ科	ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>	○	希少種	冬鳥	
17	キジ目	キジ科	ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	○		周年	
18	キジ目	キジ科	キジ	<i>Phasianus versicolor</i>	○		周年	
19	ヨクカ目	ヨクカ科	ヨクカ	<i>Caprimulgus jotaka</i>		絶滅危惧増大種	夏鳥	
20	アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>			旅鳥	
21	アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	○		旅鳥	
22	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>		希少種	夏鳥	
23	カッコウ目	カッコウ科	ホトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>		希少種	夏鳥	
24	カッコウ目	カッコウ科	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>		希少種	夏鳥	
25	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>		希少種	夏鳥	
26	ハト目	ハト科	キシスト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○		周年	
27	ハト目	ハト科	アオバト	<i>Treron sieboldii</i>		希少種	周年	
28	ツル目	クイナ科	クイナ	<i>Rallus indicus</i>	○	絶滅危惧増大種	冬鳥	
29	ツル目	クイナ科	バン	<i>Gallinula chloropus</i>	○	希少種	周年	
30	ツル目	クイナ科	オオバン	<i>Fulica atra</i>	○		周年	
31	ツル目	クイナ科	ヒクイナ	<i>Zapornia fusca</i>	○	絶滅危惧増大種	夏鳥	
32	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>		希少種	周年	
33	カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>		希少種	冬鳥	
34	カイツブリ目	カイツブリ科	ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>		希少種	冬鳥	
35	チドリ目	チドリ科	タゲリ	<i>Vanellus vanellus</i>	○	希少種	冬鳥	
36	チドリ目	チドリ科	ヴァリ	<i>Vanellus cinereus</i>	○		周年	
37	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	○	希少種	夏鳥	
38	チドリ目	チドリ科	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	○	希少種	夏鳥	
39	チドリ目	シギ科	チュウシヤクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	○	希少種	旅鳥	
40	チドリ目	シギ科	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	○	希少種	夏鳥	
41	チドリ目	シギ科	オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	○	希少種	旅鳥	
42	チドリ目	シギ科	タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>	○	希少種	冬鳥	
43	チドリ目	シギ科	イノシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	○	希少種	周年	
44	チドリ目	シギ科	ヒバリシギ	<i>Actitis subminuta</i>	○		旅鳥	
45	チドリ目	カモ科	コリカモメ	<i>Chroicocephalus ridibundus</i>	○		周年	
46	チドリ目	カモ科	ウスネコ	<i>Larus crassirostris</i>	○		冬鳥	
47	チドリ目	カモ科	カモメ	<i>Larus canus</i>	○		冬鳥	
48	チドリ目	カモ科	セグロカモメ	<i>Larus vegae</i>	○		冬鳥	
49	カオウドリ目	ウ科	カウウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○		周年	
50	ヘリカン目	サギ科	ヨイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	○		周年	
51	ヘリカン目	サギ科	ササゴイ	<i>Butorides striata</i>		希少種	夏鳥	
52	ヘリカン目	サギ科	アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>		希少種	夏鳥	
53	ヘリカン目	サギ科	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○		周年	
54	ヘリカン目	サギ科	ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	○		周年	
55	ヘリカン目	サギ科	チュウサギ	<i>Ardea intermedia</i>	○		夏鳥	
56	ヘリカン目	サギ科	ヨサギ	<i>Egretta garzetta</i>	○		周年	
57	タカ目	ミサコ科	ミサコ	<i>Pandion haliaetus</i>	○	希少種	周年	
58	タカ目	タカ科	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	○	絶滅危惧増大種	夏鳥	
59	タカ目	タカ科	クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	○	絶滅危惧種	周年	
60	タカ目	タカ科	ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	○		希少種	周年
61	タカ目	タカ科	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	○	希少種	周年	
62	タカ目	タカ科	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	○	希少種	周年	
63	タカ目	タカ科	トビ	<i>Milvus migrans</i>	○		周年	
64	タカ目	タカ科	サンバ	<i>Butastur indicus</i>	○	希少種	夏鳥	
65	タカ目	タカ科	ノスリ	<i>Buteo japonicus</i>	○	希少種	冬鳥	
66	フクロウ目	フクロウ科	アオバズク	<i>Ninox japonica</i>	○	希少種	夏鳥	
67	フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク	<i>Otus semitorques</i>	○		周年	
68	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	○	希少種	周年	
69	フッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>	○	希少種	夏鳥	
70	フッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	○	希少種	周年	
71	キツツキ目	キツツキ科	コガラ	<i>Yungipicus kizuki</i>	○		周年	
72	キツツキ目	キツツキ科	アカガラ	<i>Dendrocopos major</i>	○		周年	
73	キツツキ目	キツツキ科	オオアカガラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	○	希少種	周年	
74	キツツキ目	キツツキ科	アオガラ	<i>Picus awokera</i>	○		周年	
75	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	○	希少種	周年	
76	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	○	希少種	周年	
77	スズメ目	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	○	希少種	夏鳥	
78	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	○	希少種	夏鳥	
79	スズメ目	カササギヒタキ科	サンショウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	○	希少種	夏鳥	
80	スズメ目	モズ科	アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>	○		旅鳥	
81	スズメ目	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	○		周年	
82	スズメ目	カラス科	カラス	<i>Corvus glandarius</i>	○		周年	
83	スズメ目	カラス科	ミヤマカラス	<i>Corvus frugilegus</i>	○		冬鳥	
84	スズメ目	カラス科	ハシボソカラス	<i>Corvus corone</i>	○		周年	
85	スズメ目	カラス科	ハシブトカラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○		周年	

No.	目	科	種名	学名	南小松沼周辺	滋賀県RDL区分	備考(近江舞子での区分他)
86	スズメ目	シジュウカラ科	ヒガラ	<i>Periparus ater</i>			周年
87	スズメ目	シジュウカラ科	ヤマガラ	<i>Sittiparus varius</i>			周年
88	スズメ目	シジュウカラ科	ユガラ	<i>Poecile montanus</i>			周年
89	スズメ目	シジュウカラ科	シジュウカラ	<i>Parus cinereus</i>	○		周年
90	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○		周年
91	スズメ目	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○		周年
92	スズメ目	ツバメ科	シロドウトツバメ	<i>Riparia riparia</i>	○		旅鳥
93	スズメ目	ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○		周年
94	スズメ目	ツバメ科	イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	○		夏鳥
95	スズメ目	ツバメ科	コシアカツバメ	<i>Cecropis daurica</i>	○		夏鳥
96	スズメ目	ウグイス科	ウグイス	<i>Horornis diphone</i>	○		周年
97	スズメ目	ウグイス科	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>		希少種	夏鳥
98	スズメ目	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○		周年
99	スズメ目	ムシクイ科	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○	希少種	夏鳥
100	スズメ目	ムシクイ科	エノムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	○		旅鳥
101	スズメ目	ムシクイ科	オホソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>		希少種	旅鳥
102	スズメ目	ヨシキリ科	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	○	希少種	夏鳥
103	スズメ目	センニュウ科	エノセンニュウ	<i>Locustella amicula</i>	○		旅鳥
104	スズメ目	セッカ科	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	○	希少種	周年
105	スズメ目	メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○		周年
106	スズメ目	キクイタダキ科	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	○	希少種	冬鳥
107	スズメ目	ミンサザイ科	ミンサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	○	希少種	周年
108	スズメ目	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	○	希少種	冬鳥
109	スズメ目	ムクドリ科	ムクドリ	<i>Spodiopsar cinereus</i>	○		周年
110	スズメ目	ツグミ科	トラツグミ	<i>Zoothera aurea</i>		希少種	周年
111	スズメ目	ツグミ科	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>		希少種	夏鳥
112	スズメ目	ツグミ科	シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>			冬鳥
113	スズメ目	ツグミ科	アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>			旅鳥
114	スズメ目	ツグミ科	ツグミ	<i>Turdus eunomus</i>	○		冬鳥
115	スズメ目	ヒタキ科	エノヒタキ	<i>Muscicapa griseicticta</i>			旅鳥
116	スズメ目	ヒタキ科	ササヒタキ	<i>Muscicapa sibirica</i>			旅鳥
117	スズメ目	ヒタキ科	コマサヒタキ	<i>Muscicapa daurica</i>		希少種	夏鳥
118	スズメ目	ヒタキ科	オオムシクイ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	○	希少種	夏鳥
119	スズメ目	ヒタキ科	コリ	<i>Larvivora cyane</i>		絶滅危惧増大種	夏鳥
120	スズメ目	ヒタキ科	キヒタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	○	希少種	夏鳥
121	スズメ目	ヒタキ科	ルリヒタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	○	希少種	冬鳥
122	スズメ目	ヒタキ科	ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>	○		冬鳥
123	スズメ目	ヒタキ科	インヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	○		周年
124	スズメ目	ヒタキ科	ノヒタキ	<i>Saxicola stejnegeri</i>	○		旅鳥
125	スズメ目	カワガラス科	カワガラス	<i>Cinclus pallasi</i>		希少種	周年
126	スズメ目	スズメ科	スズメ	<i>Passer montanus</i>	○		周年
127	スズメ目	イフヒドリ科	カキウグリ	<i>Fringilla rubida</i>		希少種	冬鳥
128	スズメ目	セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	○		周年
129	スズメ目	セキレイ科	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○		周年
130	スズメ目	セキレイ科	セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	○		周年
131	スズメ目	セキレイ科	ヒンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	○		冬鳥
132	スズメ目	セキレイ科	クヒバリ	<i>Anthus rubescens</i>	○	希少種	冬鳥
133	スズメ目	アトリ科	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	○		冬鳥
134	スズメ目	アトリ科	シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	○		冬鳥
135	スズメ目	アトリ科	イカル	<i>Eophona personata</i>	○		周年
136	スズメ目	アトリ科	ワソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>		希少種	冬鳥
137	スズメ目	アトリ科	ベニマシコ	<i>Carpodacus sibiricus</i>	○	希少種	冬鳥
138	スズメ目	アトリ科	カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○		周年
139	スズメ目	アトリ科	マヒワ	<i>Spinus spinus</i>	○		冬鳥
140	スズメ目	ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○		周年
141	スズメ目	ホオジロ科	カンラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	○		冬鳥
142	スズメ目	ホオジロ科	ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>	○		冬鳥
143	スズメ目	ホオジロ科	アオジ	<i>Emberiza personata</i>	○		冬鳥
144	スズメ目	ホオジロ科	クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>		希少種	冬鳥
145	スズメ目	ホオジロ科	オオジョウリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	○	希少種	冬鳥
146	キジ目	キジ科	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	○		人為的に導入された種
147	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	<i>Columba livia</i>	○		人為的に導入された種
148	スズメ目	ガビチョウ科(和名種)	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>			人為的に導入された種
	合計		148種類		102種類		

4.3. 研究成果・関連文献

【書籍・冊子】

1. 地域の歴史から学ぶ災害対応 比良山麓の伝統知・地域知, 総合地球環境学研究所, 2019年8月
2. Traditional and Local knowledge of Eco-DRR at the foot of Hira Mountains, Research Institute for Humanity and Nature, 2020年8月
3. 地域の歴史から学ぶ災害対応 日本各地に伝わる伝統知・地域知, 総合地球環境学研究所, 2023年3月
4. 吉田丈人, 深町加津枝, 三好岩生, 落合知帆「災害対応の伝統知ー比良山麓の里山から」昭和堂, 2023年3月
5. Traditional and local knowledge of Eco-DRR from different locations in Japan, Research Institute for Humanity and Nature, March 2023

【研究論文・報告書】

1. 滋賀県「内湖再生全体ビジョン」48pp, 2013
2. 成田茉優「地域組織による入会地管理の機能と変遷: 滋賀県大津市南小松の観光開発と景勝保全を事例として」(2019年度)
3. 大澤颯太郎「石材産業と集落空間の関わりー滋賀県大津市南小松を事例として」(2019年度)
4. 地域の歴史から学ぶ災害対応 比良山麓の伝統知・地域知 (80pp), 総合地球環境学研究所 Eco-DRR プロジェクト, 2019, ISBN:978-4-906888-56-6
5. 綾部芳秀, 深町加津枝「滋賀県大津市八屋戸における秋季のトンボ類の生息状況と土地利用の関係」. 日本緑化工学会誌 46(1) pp. 170-173, 2020
6. 安藤滉一, 深町加津枝, 東幸代, 高橋大樹「大津市南小松の絵図に基づく江戸期から明治初期までの土地利用と災害対応」ランドスケープ研究 83(5): pp. 485-490, 2020
7. 安藤滉一, 深町加津枝「大津市南小松の江戸期以降の防備林の利用および今日の植生の特徴」日本緑化工学会誌 46(1):115-118, 2020
8. 成田茉優, 落合知帆「地域組織による入会地管理の歴史的変遷ー 滋賀県大津市南小松の観光開発と景勝保全を事例としてー」 日本都市計画学会 都市計画論文集, Vol. 55, No. 3, pp. 761-768, 2020年10月
9. 大和田湧「滋賀県旧志賀町における石作業小屋の再現と建築的考察」(2020年度)
10. Eco-DRR as Learned from Local History -Traditional and Local knowledge of Eco-DRR at the foot of Hira Mountains, (96pp), 総合地球環境学研究所 Eco-DRR プロジェクト, 2020, ISBN:978-4-906888-77-1
11. 藤橋杏一「地下水位の違いが湿地植生に与える影響ー近江舞子内湖周辺の湿地においてー」(2021年度)

12. Gavin WALTON 「Wetland Vegetation Along the Sunaji River in Minamikomatsu, Otsu City, Shiga」 (2021 年度)
13. Jiyngying Wang 「Traditional disaster countermeasures in rural villages of Japan - A case study in Arakawa and Daimotsu village, Shiga Prefecture (日本の農村地域における伝統的な災害対策～滋賀県大津市荒川と大物地区の事例～)」 (2021 年度)
14. Shuwei Yang 「A Study on the Characteristics of Nishimura Kahei' s Stone Lanterns in Japanese Gardens in Shiga Prefecture」 (近江石工・西村嘉兵衛作燈籠の形態的特徴とその庭に関する研究)」 (2021 年度)
15. Ando Koichi, Fukamachi Katsue, Miyoshi Iwao, Ochiai Chiho, Takahashi Hiroki, Changes in Water network Management since the Meiji Era and Issues Regarding Disaster Prevention at the Foot of Mt. Hira in Shiga Prefecture, Japan. *Journal of Environmental Information Science* 2021(2) pp.43-52, 2022
16. Chiho Ochiai, Jingying Wang, Dry Stone Wall Relics as a Part of Cultural Landscapes: A Case Study from the Foot of Mt. Hira Region in Japan. *The International Archives of the Photogrammetry, 01. Vernacular Heritage: Culture, People and Sustainability*, pp.417-424, 2022
doi.org/10.4995/HERITAGE2022.2022.15137
17. Shuwei Yang, 落合知帆, 「近江石工・西村嘉兵衛の蓮華寺燈籠と奥の院燈籠の形態的特徴と技術」 *ランドスケープ研究* 85 卷 (5), pp.381-386, 2022,
doi.org/10.5632/jila.85.381
18. 落合知帆, 「資料から読み解く滋賀県の名工・西村嘉兵衛の石燈籠に関する研究, *ランドスケープ研究* 85 卷 (5), 2022, pp.393-398, doi.org/10.5632/jila.85.393
19. 藪田美玖, 深町加津枝, 三好岩生, 落合知帆 「大津市近江舞子内湖におけるステークホルダーの関わりと地域住民の価値認識」 *ランドスケープ研究*, Vol.15, pp.48-54, 2022
20. Niwa, H. Assessment of habitat for disturbance-dependent species using light detection and ranging and multispectral sensors mounted on a UAV. *Environmental Monitoring and Assessment*, 194(9), 605, 2022
21. 吉田丈人・長岡野亜・深町加津枝. 地域に根ざした自然の恵みと災いを再考する. 「環境問題を「見える化」する : 映像・対話・協創」(近藤康久, マレーハイ編, 194pp), p37-49, 2022
22. 落合知帆, Jingying Wang, 比良山麓におけるシシ垣遺構の実態と解体要因- 滋賀県旧志賀町の 9 地区の事例から -, *都市計画学会論文集* 58 卷 3 号, pp.759-766, 2023
23. 佐藤 啓花 「地場石材産業と集落内利用に関する研究 - 滋賀県大津市北比良地区を対象として」 (2023 年度)

24. 塚田幹生「滋賀県大津市南小松沼の周辺湿地における地下水位・土壌と植生の関係」
(2023年度)
25. 丹羽英之「UAV搭載 LiDARによる地形モデルと高精度 GNSSを用いた指標植物分布調査による湿地マネジメント用高精度マッピング」保全生態学研究, 28(1), 2023
26. 地域の歴史から学ぶ災害対応 日本各地につたわる伝統知・地域知, 総合地球環境学研究所 Eco-DRR プロジェクト, 2023, ISBN: 978-4-910834-13-9
27. Eco-DRR as Learned from Local History -Traditional and Local knowledge of Eco-DRR from different locations of Japan, 2023, ISBN: 978-4-910834-14-6
28. 伝統知・地域知に関わる冊子の作成と活用, 「ローカルなグリーンインフラの始め方」, (110pp), 総合地球環境学研究所, 69-72, 2023
29. 落合知帆, Shuwei Yan「西村嘉兵衛蓮華寺燈籠の形態的特徴と西江州蓮華寺燈籠の変化に関する考察」ランドスケープ研究, Vol.17, pp.12-21, 2024
30. 大原歩, 王聞, 山口敬太, 三好岩生, 深町加津枝「滋賀県比良山麓集落の水利用にみる利水・防災の仕組みと用排水管理」ランドスケープ研究, 87 巻 5 号 pp.401-406」
(2024)
31. 王聞, 中井美波, 大原歩, 石塚政孝, 三好岩生, 深町加津枝「滋賀県大津市比良山麓の2集落における石構造物の分布と石材利用」ランドスケープ研究, 87 巻 5 号 pp.419-424, 2024
32. 吉田丈人・深町加津枝・三好岩生・落合知帆編(著)。「災害対応の伝統知 比良山麓の里山から, 200pp」災害対策と生き物の分布, 昭和堂, 2024
33. Niwa, H. 「Estimation of potential seed dispersal regions based on floating and ballochory of *Euphorbia adenochlora* capsules」 Ecological Solutions and Evidence, 5(4), 2024
34. 深町加津枝. 39 比良山麓東麓, 42 上世屋「図説 日本の里山 73 の里山のくらしと生物多様性」(湯本貴和ら編, 184pp), 朝倉書店, p96-97, p102-103, 2025

4.4. 南小松沼(内湖)自然再生協議会規約

(名称)

第1条 本会は、南小松沼(内湖)自然再生協議会(以下「協議会」という。)称する。

(対象となる区域)

第2条 協議会で検討する環境保全の対象となる区域は、南小松沼(内湖)および周辺区域(南小松沼の生態系とつながった区域)とする。

(目的)

第3条 協議会は、対象区域の環境および景観を保全するために必要となる事項の協議および事業を行うことを目的とする。

(協議会の事務および事業)

第4条 協議会は、次に掲げる事務および事業を行う。

- (1) 南小松沼(内湖)自然再生全体構想の作成・改定
- (2) 南小松沼(内湖)自然再生事業実施計画内容の検討
- (3) 南小松沼(内湖)自然再生全体構想に係る各団体の事業実施に係る連絡調整
- (4) その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること

(委員)

第5条 協議会の委員は、次の各号より選出される者をもって構成する。

- (1) 自然再生事業を実施しようとする者
- (2) 地域住民、特定非営利活動法人等、自然環境及び社会文化に関し専門的知識を有する者
- (3) 関係行政機関及び関係地方公共団体
- (4) その他協議事項との関わりが深く協議会に出席が必要とされる者

(就任、辞任および解任)

第6条 前条の委員への就任は協議会の合意によるものとする。

- 2 委員を辞任しようとする者は、会長に書面により通知しなければならない。
- 3 協議会の運営に著しい支障をきたす場合には、協議会の合意により委員を解任することができる。

(役員)

第7条 役員は会長1名、副会長2名、事務局長1名、事務局次長若干名とする。

- 2 会長及び副会長、事務局長、事務局次長は委員の互選により定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、必要に応じ会長の職務を代理する。
- 5 事務局長は、協議会の会議の事務に関する事項およびその他協議会が付託する事を行う。
- 6 事務局次長は、事務局長を補佐し、必要に応じ事務局長の職務を代理する。
- 7 会長が委嘱をする顧問を置くことができる。

(協議会の会議)

第8条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議の議長は、会長がこれにあたる。

3 会長は、意見を聴取することを必要と認める場合、協議会の会議に委員以外の者の出席を要請することができる。

4 協議会は、部会を置くことができる。

(事業年度)

第9条 事業年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(事務局)

第10条 協議会の会務を処理するために事務局を設ける。

2 事務局は、次に掲げる事務を行う。

(1) 協議会の会議の事務に関する事項

(2) 協議会の会議の議事録の作成および公開に関する事項

(3) その他協議会が付託する事項

(公開)

第11条 協議会の会議は、生物の保護上または個人情報の保護上支障のある場合を除き、原則公開とする。

2 協議会の会議及び部会を開催する際には、日時、場所等について予め広く周知を図る。

3 協議会の会議の資料は、生物の保護上または個人情報の保護上支障のある場合を除き、公開する。

4 協議会の会議の議事結果は、要旨をとりまとめて議事要旨とし、会長の承認を経て公開する。

(運営細則)

第12条 この規約に規定することの他、規約施行及び協議会の運営に関して必要な事項は、第5条に規定する協議会の会議の出席委員の合意を得て、会長が別に規定する。

(規約改正)

第13条 この規約は、協議会の承認を経て改正することができる。

附則

この規約は、令和4年11月23日から適用する。

4.5. 名簿

【役員】

会長：平出直厚

副会長：北澤忠博・小村廣光

事務局長：深町加津枝（京都大学）

事務局次長：神田健次・神田規宏・小林道夫・塩見久恵

【学識者】

大原歩（京都大学）・落合知帆（京都大学）・関慎太郎（びわこベース）

・丹羽英之（京都先端科学大学）・三好岩生（京都府立大学）

【個人】

上見ロビン・石川明弘・磯田潔・磯田宏美・岡田豊・北尾圭梧・久保伸樹・黒川雅世

・小林健司・三科基次・定栄誠・東岸滋応・野島昌洋・平井秀和・真崎健・真崎直子

・松井一幸・森哲郎・藪田美玖・山川民男・渡辺綱男

【地域団体】

近江舞子内湖を愛する会・小松プレーパーク・比良八講事務局・南小松入会地管理会

・南小松老人クラブ

【事業者】

エバーグレイズ琵琶湖

【関連行政】

大津市環境部

滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課

滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課

環境省近畿地方環境事務所

(2025年12月現在)